

《課題名を記入》

透析患者における麻酔導入時の血圧低下は透析記録から予見しうるか

《対象者を記入》

血液透析患者で全身麻酔を受けた患者

研究協力をお願い

当科では「透析患者における麻酔導入時の血圧低下は透析記録から予見しうるか」という研究を行います。この研究は、血液透析患者で全身麻酔を受けた患者の臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただく前に、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：透析患者における麻酔導入時の血圧低下は透析記録から予見しうるか

研究期間： 2011年4月1日～2016年9月30日

実施責任者： 滋賀医科大学 麻酔学講座 清水盛浩

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

透析患者では骨ミネラル代謝異常により血管石灰化が高度に進行しており、透析患者の麻酔導入時には非透析患者に比べ血圧が低下しやすいことが言われている。心機能や脳血管、臓器血流の維持は非常に重要であり麻酔導入時の血圧低下は致命的なことになりうる。透析患者において麻酔導入を慎重に行っても血圧が大幅に低下する例がある。血圧が大幅に低下する症例を予見することができれば血圧低下に伴う様々な合併症を予防することにつながりうる。

透析患者の麻酔導入時における血圧の変動は、非常に進行した動脈硬化により大きく変動する。このように麻酔導入時に血圧が大きく変動するが、血液透析中における血圧の低下も様々な合併症を引き起こすと言われている。しかしそれを予見する因子を散見するが明らかになっていない。そこで今回、麻酔導入時の血圧低下を予見する指標として透析時の血圧低下と関連があるかどうかということについて新たに着目する。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

電子カルテを参照し過去のデータを解析する

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

研究計画書の開示を求められた場合は速やかに対応する。

(7) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 《窓口所属》 麻酔科 《対応者氏名》 清水盛浩

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2281

メールアドレス： hqanes@belle.shiga-med.ac.jp